

インターバンクの声（2015年3月31日）

昨日の外国為替市場は、東京市場では盛り上がりを欠いていたドル円も、ロンドン市場からニューヨーク市場にかけて一週間ぶりに120円台を回復するところまで円売りが進んだ。ユーロ・ドルも東京の朝は、1.09ドル近くから始まっていたが、ロンドンからニューヨークまで概ねユーロ売りが続き、ニューヨーク市場の終盤は1.08ドル前半まで下げた。週末は米連邦準備制度理事会（FRB）イエレン議長の利上げに言及した講演内容にドル売りの反応を見せた市場も、昨日は兎にも角にも年内の利上げとの理解になりドル買いとなった。そして何よりも中国のインフラ投資や景気刺激策の発表を好感した欧米の株高の影響も大きかったようだ。見落としていたが、ニューヨーク・ダウが2営業日連続して上昇したのは約一ヵ月ぶりのことだったらしい。本邦の事業内容を大きく変えた大手企業による米企業の買収を含めた、買収・合併（M&A）案件が重なったことも株価押し上げに寄与したようだ。今週の市場でのイベント大本命は金曜日の米雇用統計に他ならないが、その前にも幾つも米国、中国、ユーロ圏絡みの指標発表があり、単純に昨日のドル買い相場が続くとは限らないだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。